

## 補充問題〔第1問〕

### 問題1

1	イ	2	ウ	3	カ	4	ソ
5	ク	6	ケ	7	シ	8	ス

### 問題2

1	ウ	2	ア	3	ウ	4	ア	5	エ
6	イ	7	ケ	8	セ	9	コ	10	ソ

### 問題3

#### 問1

	比率名	C社	D社
①	流動比率	237.8%	84.0%
②	当座比率	202.4%	48.0%
③	総資産負債比率	28.1%	72.4%
④	固定長期適合率	60.8%	111.7%
⑤	売上債権回転率	5.4回	3.9回

各分析指標の計算式は以下のようになる。

$$\text{①流動比率：C社} \quad \frac{88,000}{37,000} \times 100 = 237.8\%$$

$$\text{D社} \quad \frac{420,000}{500,000} \times 100 = 84.0\%$$

$$\text{②当座比率：C社} \quad \frac{50,000 + 25,000 - 100}{37,000} \times 100 = 202.4\%$$

$$\text{D社} \quad \frac{60,000 + 180,000 - 100}{500,000} \times 100 = 48.0\%$$

$$\text{③総資産負債比率：C社} \quad \frac{45,000}{160,000} \times 100 = 28.1\%$$

$$\text{D社} \quad \frac{1,100,000}{1,520,000} \times 100 = 72.4\%$$

$$\text{④固定長期適合率：C社} \quad \frac{72,000}{110,500 + 8,000} \times 100 = 60.8\%$$

$$\text{D社} \quad \frac{1,100,000}{385,000 + 600,000} \times 100 = 111.7\%$$

$$\text{⑤売上債権回転率：C社} \quad \frac{130,000}{\{23,100 + (25,000 - 100)\} \div 2} = 5.4\text{回}$$

$$\text{D社} \quad \frac{700,000}{\{177,000 + (180,000 - 100)\} \div 2} = 3.9\text{回}$$

※当座資産＝現金及び預金＋受取手形及び売掛金－貸倒引当金（流動）

売上債権＝受取手形及び売掛金－貸倒引当金（流動）

問 2

総合的に判断すると、安全性において（ C ）社の方が、優れている。

理 由

短期的な支払能力を示す流動比率、当座比率とも、C社がD社より非常に良好な数値となっている。D社は、流動比率、当座比率がそれぞれ安全性の目安である200%、100%を大きく下回っており、支払能力に問題がある。

長期的な安全性を示す総資産負債比率、固定長期適合率においても、C社がD社よりも高い安全性を有している。D社の固定長期適合率は100%を超えていることから、固定資産の一部を流動負債でまかなっていることになり、安全性の面で問題である。

以上より、安全性において、C社の方が優れている。

問題 4

1	ケ	2	キ	3	ア	4	キ	5	サ
6	ケ	7	サ	8	イ	9	エ		

なお、株価収益率（P E R）及び、株価純資産倍率（P B R）は、以下の式により求められる。

P E R = 株価 ÷ 1株当たり当期純利益

ただし、1株当たり当期純利益 = 当期純利益 ÷ 発行済株式総数

P B R = 株価 ÷ 1株当たり純資産

ただし、1株当たり純資産 = 純資産 ÷ 発行済株式総数

したがって、E社、F社それぞれのP E R、P B Rは以下のようになる。

E社：P E R 500円 ÷ (20,000百万円 ÷ 2,000百万株) = 50倍

P B R 500円 ÷ (400,000百万円 ÷ 2,000百万株) = 2.5倍

F社：P E R 2,000円 ÷ (10,000百万円 ÷ 50百万株) = 10倍

P B R 2,000円 ÷ (100,000百万円 ÷ 50百万株) = 1倍

## 補充問題〔第2問〕

### 問題 1

	正 誤	理 由
1	×	趨勢分析は時系列的な分析である。
2	×	棚卸資産は、貸借対照表項目である。
3	○	
4	○	
5	×	投資活動によるキャッシュ・フローの部に計上される。
6	×	固定負債の情報は含まれない。
7	○	

〔注〕以上は、標準の解答であり、たとえば、1について「他の企業と比較する方法は、比較分析である。」としても正解となる。他も同様である。

### 問題 2

1	オ	2	ウ	3	カ	4	キ	5	ア
6	イ	7	ク	8	ク	9	ク	10	コ

### 問題 3

#### 問 1

	分析指標	前事業年度	当事業年度
①	総資産当期純利益率	2.0%	5.0%
②	売上高売上総利益率	30.0%	33.9%
③	流動比率	203.9%	200.0%
④	総資産負債比率	80.7%	68.5%

各分析指標の計算式は以下のとおりである。

(前事業年度)

$$\text{①総資産当期純利益率} = \frac{7,662}{(380,000 + 376,520) \div 2} \times 100 = 2.0\%$$

$$\text{②売上高売上総利益率} = \frac{64,800}{216,000} \times 100 = 30.0\%$$

$$\text{③流動比率} = \frac{152,200}{74,630} \times 100 = 203.9\%$$

$$\text{④総資産負債比率} = \frac{303,980}{376,520} \times 100 = 80.7\%$$

(当事業年度)

$$\textcircled{1} \text{総資産当期純利益率} = \frac{17,236}{(376,520 + 314,090) \div 2} \times 100 = 5.0\%$$

$$\textcircled{2} \text{売上高売上総利益率} = \frac{87,760}{259,200} \times 100 = 33.9\%$$

$$\textcircled{3} \text{流動比率} = \frac{117,600}{58,800} \times 100 = 200.0\%$$

$$\textcircled{4} \text{総資産負債比率} = \frac{215,200}{314,090} \times 100 = 68.5\%$$

問 2

総合的に判断すると、当期は前期に比べて、

( ア. 良くなった。 イ. 変わらない。 ウ. 悪くなった。 )

理 由

収益性についてはすべての指標が良くなっている。安全性について、総資産負債比率が低下している。一方、流動比率が低下しているが、当事業年度も200%基準を満たしているの  
で、これも問題がない。したがって、総合的には当期は前期に比べて良くなったといえる。

[注] なお、少数株主持分が大幅に減少しているが、これはたとえば不良子会社との関係を清算したものと推理される。

問題 4

1	10,000	2	13,000	3	新株	4	100
5	200	6	4,100	7	20	8	4,120

## 補充問題〔第3問〕

### 問題 1

1	イ	2	オ	3	エ	4	カ	5	オ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

### 問題 2

1	ア	2	カ	3	ウ	4	エ	5	キ
6	ク	7	サ	8	ソ	9	タ	10	ツ

### 問題 3

#### 問 1

	分析指標名	B 社	C 社
①	総資産当期純利益率	2.9%	1.7%
②	株主資本当期純利益率	6.5%	3.6%
③	固定長期適合率	103.4%	102.6%
④	総資産負債比率	52.4%	54.4%

各分析指標の計算式は以下のとおりである。

$$\text{①総資産当期純利益率：B社} \quad \frac{65,000}{(2,200,000+2,300,000) \div 2} \times 100 = 2.9\%$$

$$\text{C社} \quad \frac{68,600}{(4,080,000+4,220,000) \div 2} \times 100 = 1.7\%$$

$$\text{②株主資本当期純利益率：B社} \quad \frac{65,000}{(928,400+1,071,600) \div 2} \times 100 = 6.5\%$$

$$\text{C社} \quad \frac{68,600}{(1,893,000+1,896,920) \div 2} \times 100 = 3.6\%$$

$$\text{③固定長期適合率：B社} \quad \frac{1,464,200}{(1,071,600+344,000)} \times 100 = 103.4\%$$

$$\text{C社} \quad \frac{3,217,040}{(1,896,920+1,237,800)} \times 100 = 102.6\%$$

$$\text{④総資産負債比率：B社} \quad \frac{1,206,000}{2,300,000} \times 100 = 52.4\%$$

$$\text{C社} \quad \frac{2,296,200}{4,220,000} \times 100 = 54.4\%$$

問 2

総合的に判断するとB社はC社に比べて、

(ア. 良い。 イ. 変わらない。 ウ. 悪い。)

理 由

収益性については、総資産当期純利益率も株主資本当期純利益率もB社の方がよい。安全性については、総資産負債比率はB社の方がよい。固定長期適合率はC社の方がよいが、その差はわずかであるため、総合的に判断してB社の方がよい。

問題 4

1	ウ	2	オ	3	カ	4	キ
5	サ	6	シ	7	コ	8	ス

## 補充問題〔第4問〕

### 問題1

1	ウ	2	オ	3	エ	4	サ
5	ウ	6	カ	7	オ	8	キ

### 問題2

1	ア	2	セ	3	キ
4	ア	5	ク	6	オ

### 問題3

#### 問1

	分析指標名	C社	D社
①	売上高売上総利益率	42.3%	42.3%
②	売上高営業利益率	17.8%	24.5%
③	経常収益経常利益率	27.7%	29.1%
④	流動比率	277.3%	211.6%

各分析指標の計算式は以下のとおりである。

$$\text{①売上高売上総利益率：C社} \frac{215,300}{509,300} \times 100 = 42.3\%$$

$$\text{D社} \frac{408,500}{966,500} \times 100 = 42.3\%$$

$$\text{②売上高営業利益率：C社} \frac{90,600}{509,300} \times 100 = 17.8\%$$

$$\text{D社} \frac{236,800}{966,500} \times 100 = 24.5\%$$

$$\text{③経常収益経常利益率：C社} \frac{161,000}{509,300 + 70,900} \times 100 = 27.7\%$$

$$\text{D社} \frac{299,500}{966,500 + 63,700} \times 100 = 29.1\%$$

$$\text{④流動比率：C社} \frac{418,700}{151,000} \times 100 = 277.3\%$$

$$\text{D社} \frac{994,500}{470,000} \times 100 = 211.6\%$$

問 2

総合的に判断すると、( D ) 社の方が優れている。

理 由

売上高売上総利益率はC社，D社に違いはないが，売上高営業利益率，経常収益経常利益率ともにD社が良い。ただし，流動比率は，C社のほうが良い。しかし，流動比率は，200%を超えていれば良いとされているので，C社，D社とも特に短期安全性に問題はない。したがって，収益性の観点で優るD社のほうが総合的には良いといえる。

問題 4

問 1

1	コ	2	ク	3	ア
4	キ	5	カ	6	ウ

問 2

	前 期	当 期
配当性向	40%	60%

配当性向は，以下の式により計算される。

$$\text{配当性向} = (\text{配当金} / \text{当期純利益}) \times 100 (\%)$$

したがって，前期および当期の配当性向は以下のようになる。

$$\text{前期} : (10,000 / 25,000) \times 100 = 40\%$$

$$\text{当期} : (30,000 / 50,000) \times 100 = 60\%$$